

## 第4章

### 子育ての気がかり

# 1. 子どもの日本語能力

## 1. 子どもの日本語能力 (図4-1)

子どもの日本語能力は、すべて2歳以上の子どもについて集計した。保護者からみた子どもの日本語能力は、「よくできる」60.7%、「少しできる」26.3%、「あまりできない」6.0%、「ぜんぜんできない」1.0%であった。保護者は「よくできる」38.3%、「少しできる」38.9%であった。保護者からみて6割の子どもは、日本語が「よくできる」と評価されている。「よくできる」の中には、その年齢の子どもとしてという意味が含まれていたとしても、日本語ができる子どもの率は高い。

## 2. 子どもの年齢別日本語能力 (図4-2)

子どもの年齢別に日本語能力をみると、「よくできる」は2歳児48.9%、3歳児60.2%、4歳児66.1%、5歳児72.7%、6歳児76.8%と年齢と共に上昇していた。どの年齢においても「あまりできない」「ぜんぜんできない」は低かった。しかし、「年齢に比べて言葉が遅い」など子どもの日本語の習得を心配している保護者は多かった。

## 3. 子どもと保護者の

### 日本語能力の関連 (図4-3)

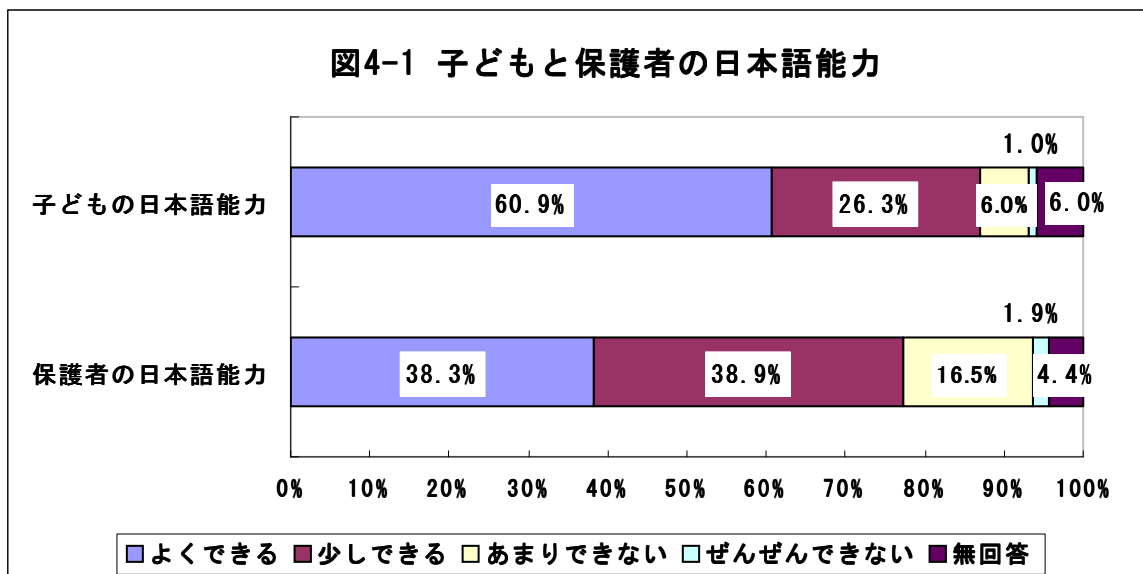
子どもの日本語が「よくできる」場合、保護者の日本語が「よくできる」は55.6%と多かったが、「あまりできない」「ぜんぜんできない」も9.1%あった。子どもの方が早く日本語ができるようになっているのがうかがえた。

子どもが「ぜんぜんできない」場合、6割弱の保護者は日本語が「あまりできない」「ぜんぜんできない」であった。子どもの日本語ができないほど保護者の日本語もできないが多かった。

しかし、保護者が「ぜんぜんできない」と答えていても、子どもは日本語が「よくできる」「少しできる」は68.9%だった。子どもは日本語を確実に習得している。

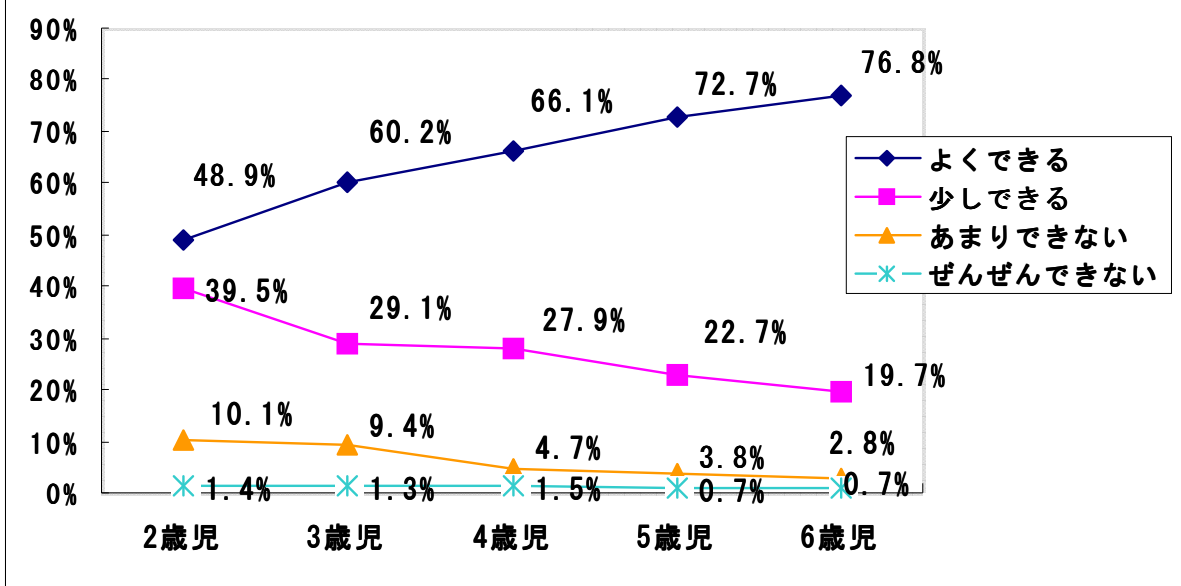
「主人と私の日本語能力が高くなっても、子どもの程度の方が高い。だから子どもと親の感情がますます遠く離れていきます。」(ベトナム)

このように、子どもが日本語を習得するにしたがって、日本語の不得手な保護者との間に新たな不安も生じてくる。



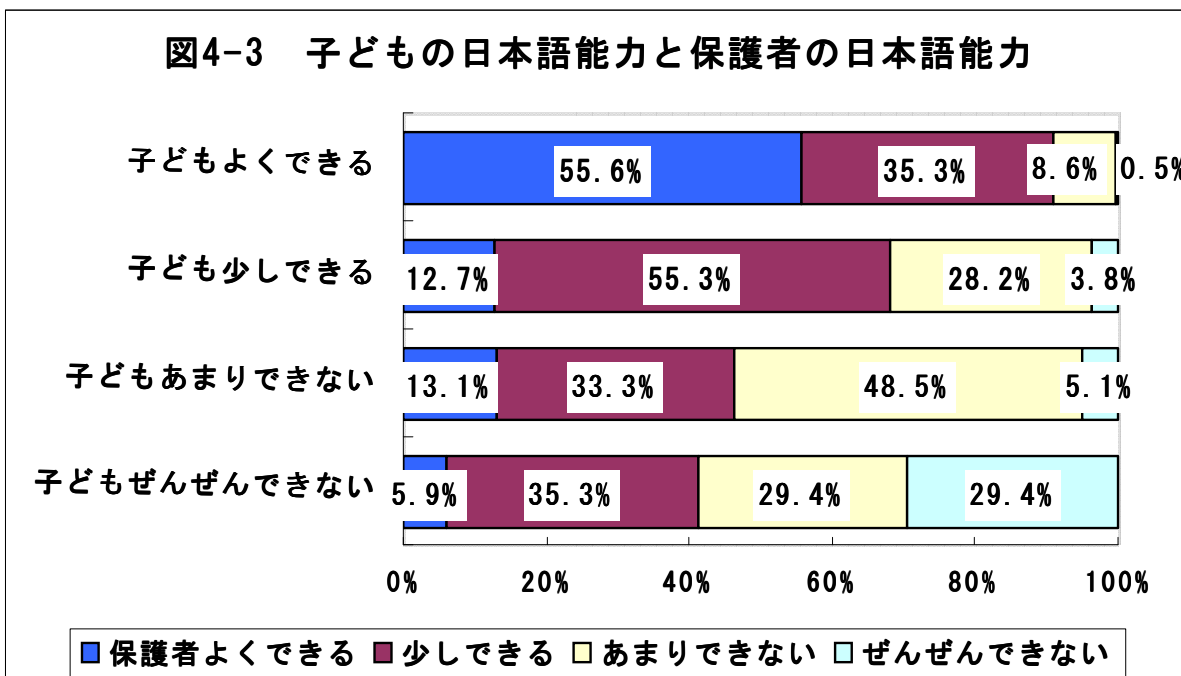
N=1644

図4-2 子どもの年齢と日本語能力



N=1624

図4-3 子どもの日本語能力と保護者の日本語能力



N=1588

#### 4. 家庭での使用言語と子どもの日本語

(図4-4)

家庭で日本語を使っている子どもと、使っていない子どもの日本語能力をみた。主にあるいは第2言語として家庭で日本語を使っていた子どもは56.0%、使っていない子どもは44.0%であった。家庭で日本語を使っている子どもは、日本語が「よくできる」78.4%と高い率であった。7章p91「家庭で使う言語」で記したように、保護者の滞在年数が長くなるほど、家庭で日本語を使用していたことも関係していると思える。

日本語を使用している家庭の中には、日本語のみの場合、母語と日本語など複数言語を使用している場合がある。「子どもは、今2種類の言葉を同時に学び、言葉の障害がおきないでしょうか。」(保4男・母33歳・中国・1年)このように、両親の母語と日本語などの2~4言語で育てている子どもに対して、言語が混乱しないかと心配している親もいる。言語は各人のアイデンティティに関わっているので、積極的に家庭では母語を使用している保護者は多い。子育ての気がかりの項でも記すが、各家庭で多様な対応がみられる。

家庭で日本語を使用していない子どもの日本語能力をみると、「よくできる」47.0%、「少しできる」40.3%と日本語ができる子どもは多かった。それは今回の調査が通園している子どもが多かったことと関係していると思われる。

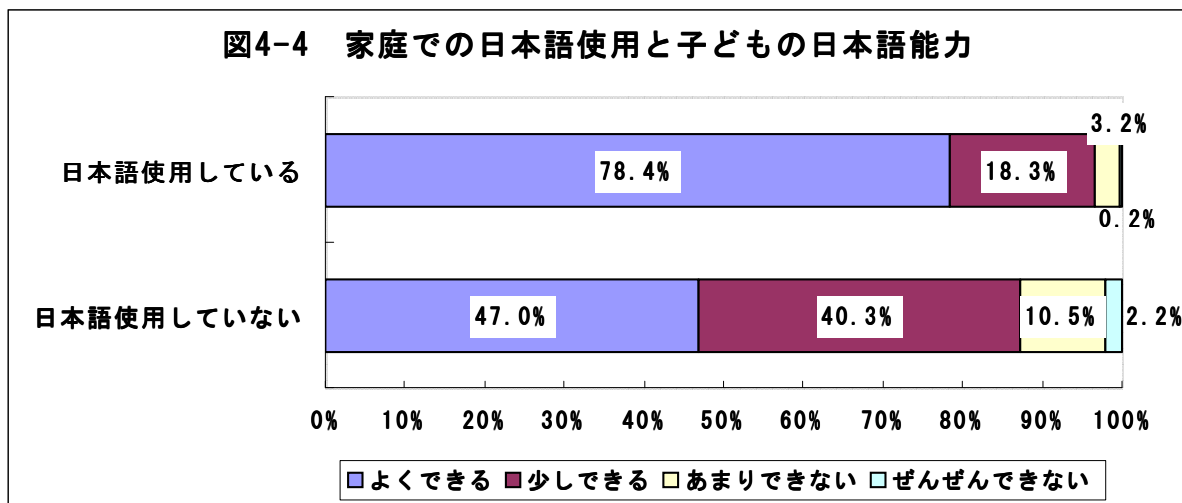
#### 5. 在園期間と子どもの日本語 (図4-5)

保育園・幼稚園に在園している子どもの在園期間と子どもの日本語能力をみると、在園期間が長くなるに従って、子どもの日本語が「よくできる」率は高くなっていった。3ヵ月以下では38.5%、7-11ヵ月では44.2%、2年以上では79.6%であった。なお、60%以上の子どもが「よくできる」と答えるには1年を要していた。

#### 6. 在園期間3ヵ月以下の子どもの滞在年数別日本語能力 (図4-6)

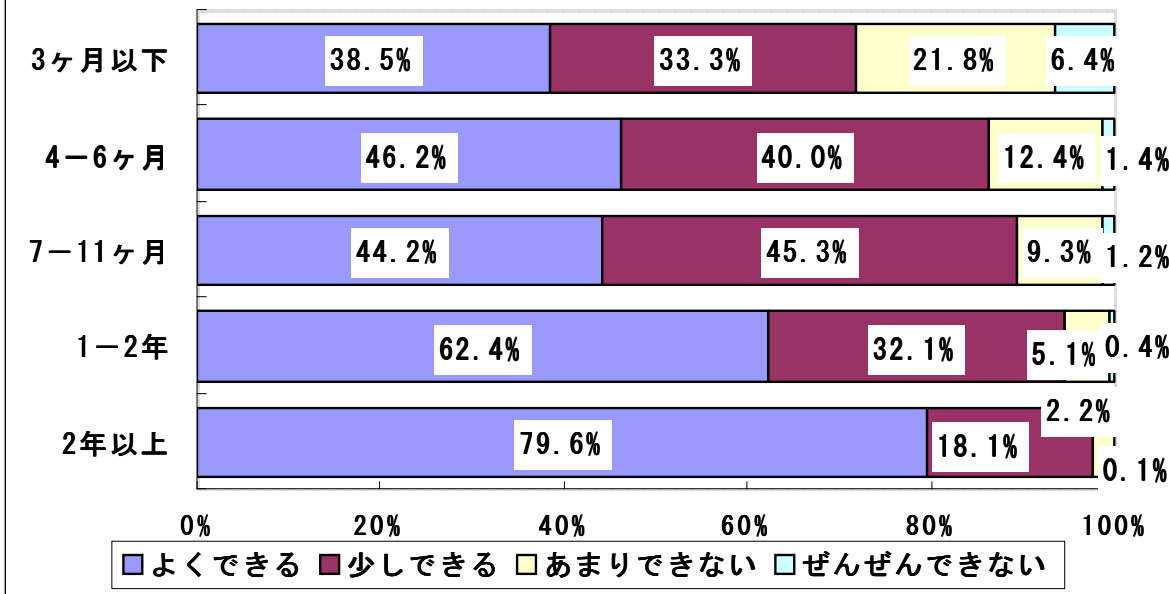
3ヵ月以下の在園期間で、日本語が「よくできる」「少しできる」は71.8%の高い率であった。そこで、在園期間3ヵ月以下の子どもの滞在年数をみると、1年未満の子どもは19.3%であった。その子どもの日本語が「よくできる」は6.9%であった。他の子どもは在園期間が3ヵ月以下であっても、日本で1年以上暮らしていたことになる。滞在年数が長いほど日本語が「よくできる」率は高くなっていった。滞在年数2年以上になると「ぜんぜんできない」はいなかった。

なお、子どもの滞在年数と子どもの日本語能力をみると、滞在年数が長くなるにつれて「よくできる」子どもの率は高くなっていった。



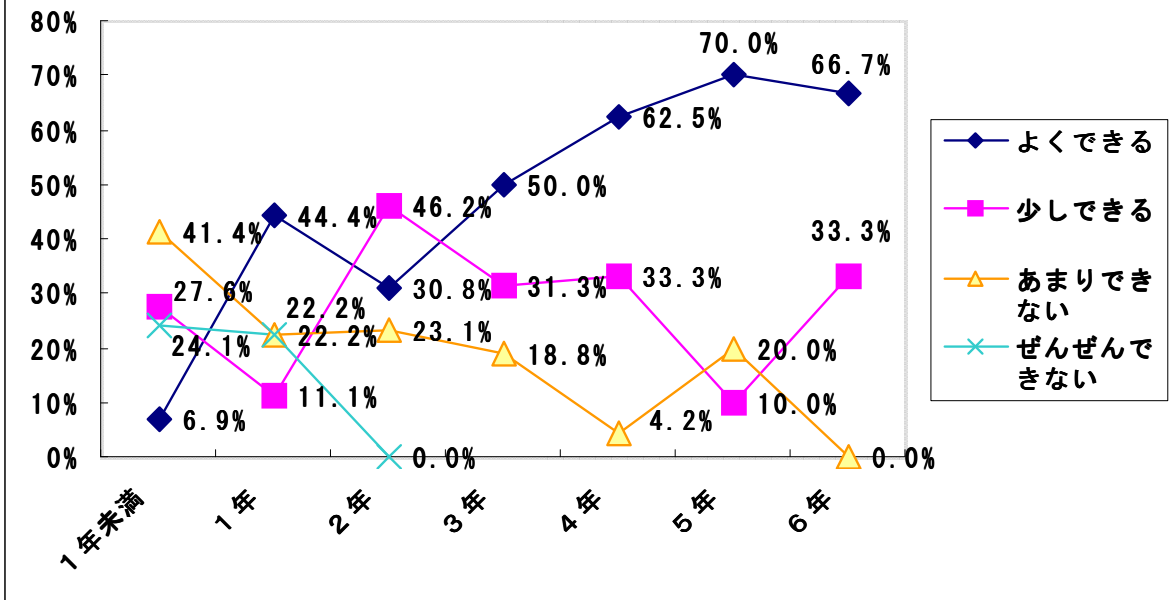
N=1644

図4-5 在園期間と子どもの日本語能力



N=1585

図4-6 在園期間3ヵ月以下の子どもの滞在年数と日本語能力



N=146

## 2. 子どもの交友関係

### 1. 子どもの遊び相手 (図4-7)

子どもは友達とどの程度遊んでいるのだろうか。「近所の日本人の子どもと遊ぶ」「同じ国の子どもと遊ぶ」についてたずねた。遊び相手についてはすべて2歳以上の子どもを集計した。近所の日本人の子と「よく遊んでいる」31.3%、「少し遊んでいる」22.3%、「あまり遊んでいない」21.6%、「ぜんぜん遊んでいない」18.8%であった。同じ国の子どもと「よく遊んでいる」21.2%、「少し遊んでいる」26.0%、「あまり遊んでいない」22.5%、「ぜんぜん遊んでいない」21.3%であった。

「幼稚園から帰ってきて家のまわりにはあまり友達がいません」(年中男・母・6年)

「住んでいるところで他の子どもとあまり会えません」(保4女・母35歳・中国・5年)

このように、遊びたくても近くに遊び相手がないという物理的な要因を考慮しなければならない。

### 2. 年齢別日本人の子どもと遊ぶ (図4-8)

年齢別に「近所の日本人の子どもと遊ぶ」をみると、「よく遊ぶ」は、4歳児 29.2%から5歳児 39.2%と増えてくる。しかし、6歳でも47.9%にとどまっていた。「ぜんぜん遊んでいない」は徐々に減少しているとはいえ、6歳児で「あまり遊んでいない」を加えると3割近くであった。

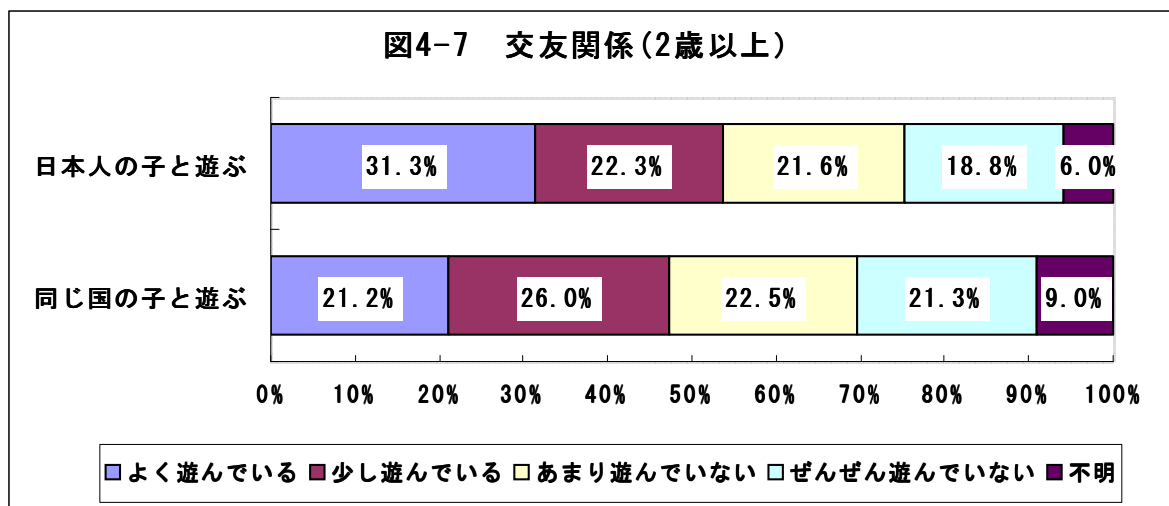
### 3. 子どもの滞在年数と遊び相手 (図4-9)

子どもの滞在年数から「近所の日本人の子どもと遊ぶ」をみてみた。「よく遊んでいる」と答えた率は滞在年数が長くなるに従って高くなっていった。

1年未満8.3%、3年32.4%、6年57.3%と確実に増えていた。反対に「ぜんぜん遊んでいない」は、1年未満43.1%、3年20.6%、6年5.1%と減少していた。

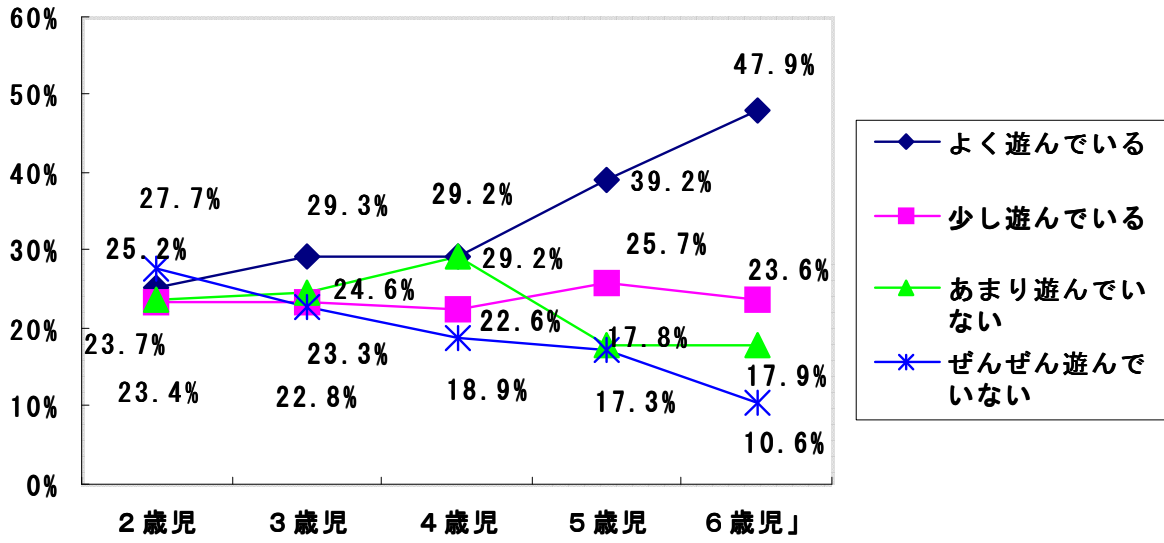
なお、これまでの結果から子どもの滞在年数が長いほど年齢が上で、日本語もできると思われる。

「同じ国の子どもと遊ぶ」は、滞在年数による差はみられなかった。



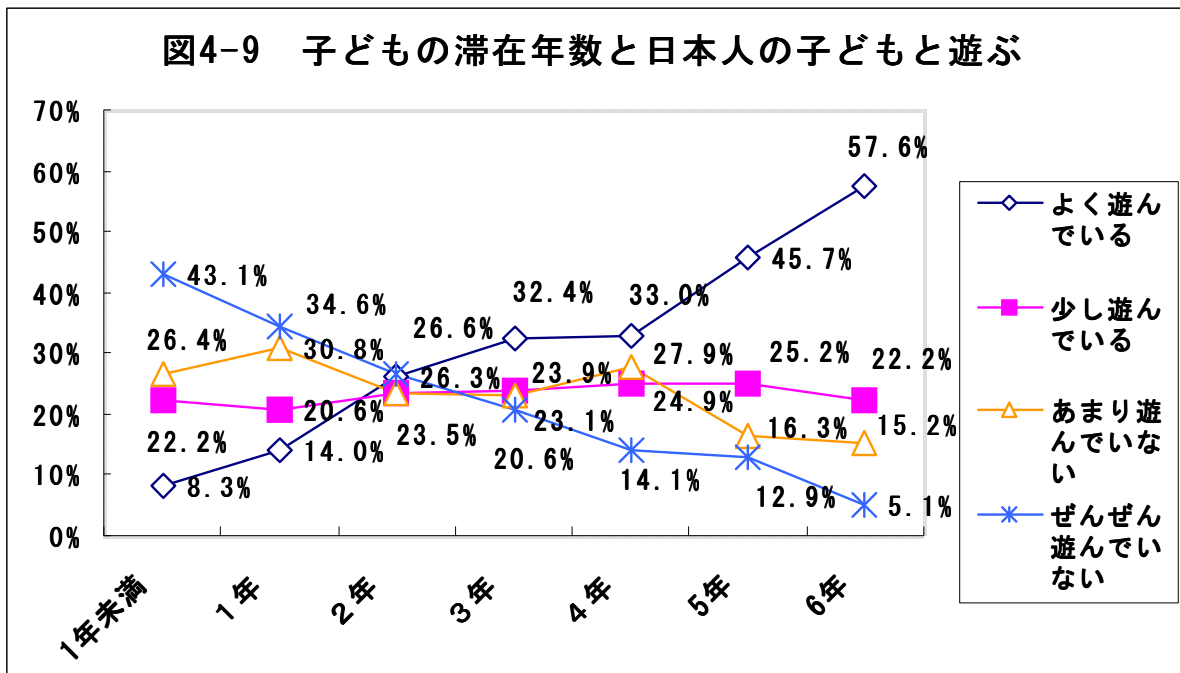
N=1749

図4-8 子どもの年齢と日本人の子どもと遊ぶ



N=1644

図4-9 子どもの滞在年数と日本人の子どもと遊ぶ



N=1594

#### 4. 子どもの日本語能力と遊び相手 (図4-10)

子どもの日本語能力と「近所の日本人の子どもと遊ぶ」をみると、日本語が「できる」に従って、日本人の子どもと「よく遊ぶ」率は高くなっていた。「ぜんぜん遊んでいない」は、日本語が「できない」ほど多くなっていた。

「言葉が遅かったので友達との会話がうまくできず、一緒に遊んでも聞きとれないのですぐに一人遊びになる。」(保4男・母37歳・韓国・7年) このように、子どもの日本語が「あまりできない」「ぜんぜんできない」場合には、日本人の子どもと「遊んでいない」は、75.0%、83.3%と高い率であった。2章でも触れたが、日本語ができない子どもに対して、園を含めまわりの人々の配慮が必要と思われる。

#### 5. 遊び相手についての気がかり (図4-11)

「近所の日本人の子どもと遊ぶ」ことと、保護者の気がかりの中で「園でいじめられているのではと心配」と「友だちと仲良く遊ぶこと」についてみてみた。

「よく遊んでいる」と回答した保護者の中でも、20.8%が園で「いじめられている」のではと心配し、20.3%が「友達と仲良く遊んでいる」かと気がかりにしていた。「ぜんぜん遊んでいない」と答えた保護者では、42.1%がいじめられているのではと心配し、34.0%は友達と仲良く遊んでいるか気がかりにしていた。

「私の息子は遊ぶのが好きでお友だちともよく遊びますが、いじめられ、けんかになることが多いです。」(保5男・母31歳・ペルー・9年)

「子どもが外国の国籍をもっている原因で、他の子どもと仲よくできないのではと心配しています。」(保1女・母38歳・中国・6年)

「息子は何人かの友達にいじめられ、グループに入れてもらえなくてかなり困っています」(幼年長男・母40歳・ペルー・0年)

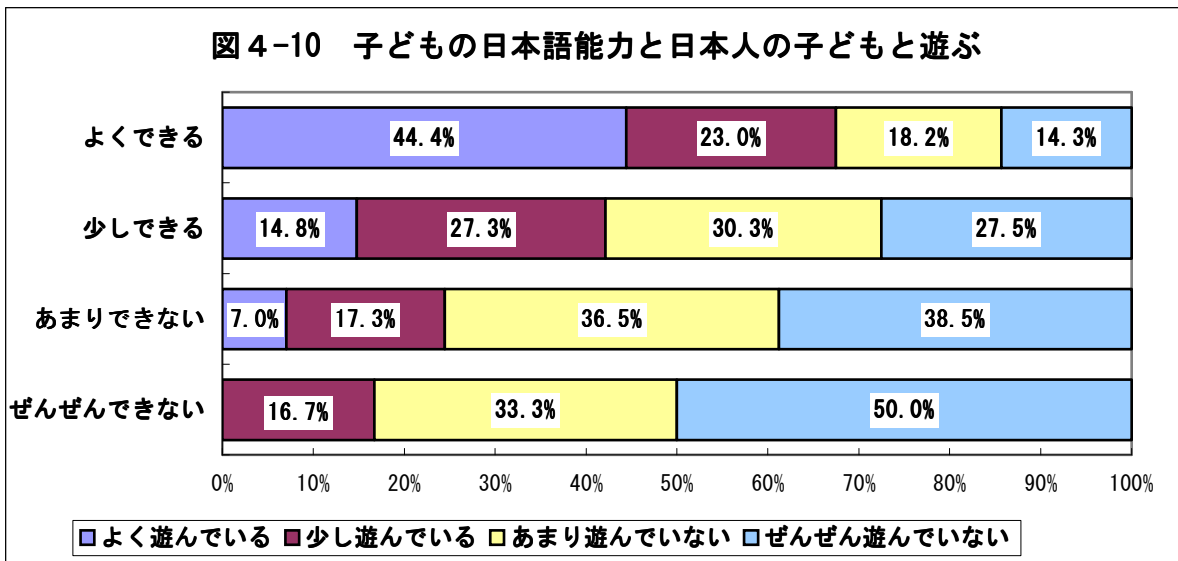
保護者は、いじめなどの報道から、子どもが友だちと遊んでいても、仲良く遊んでいるか、いじめられていないかと心配している。とりわけ、友達と遊べていないと、いじめなど子どもの交友関係をより心配するようになる。

このことは、5章の母親の子育てづきあいでも触れているので参照してほしい。

#### 6. 保護者の人づきあいとの関連 (図4-12)

「保護者が他の母親たちが話しているところに気軽に参加できる」度合いと「近所の日本人の子どもと遊ぶ」をみてみた。保護者が「気軽に参加できる」方だと思っているほど、子どもの「よく遊んでいる」率は高く、47.1%であった。また、「ぜんぜん参加できない方」と思っている保護者の子どもほど「ぜんぜん遊んでいない」率が高く、34.8%であった。

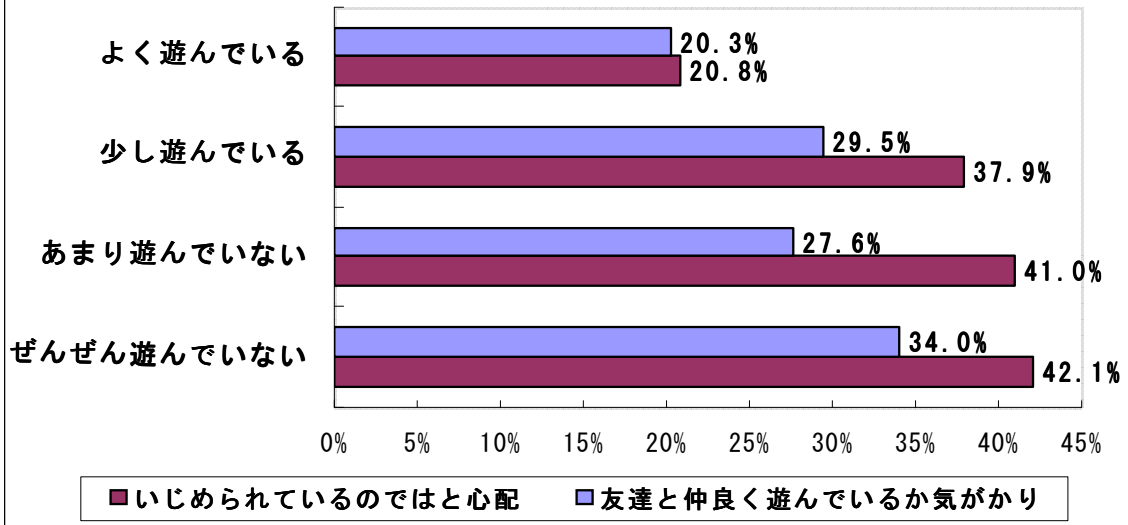
同じ国の子どもと遊ぶに関しては、保護者の人づきあいとの関連はみられなかった。



N=1633

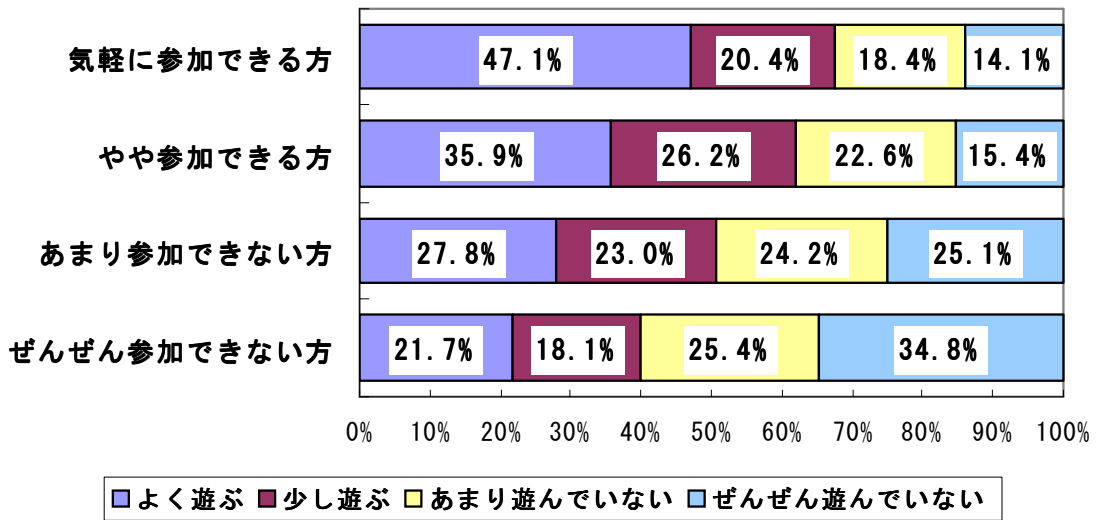


図4-11 日本人の子と遊ぶと保護者の気がかり



いじめられているのではと心配 N=1620  
 友達と仲良く遊んでいるか気がかり N=1644

図4-12 他の母親たちが話しているところに気軽に参加できると日本人の子どもと遊ぶ



N=1492

## 3. 病気の子どもの世話

### 1. 病気の子どもの世話 (図 4-13)

子どもの病気は、保護者にとっては避けては通れない問題である。子どもが病気ときは誰がみているかをたずねた。

全体の上位から、親のどちらかが仕事を休んでいる」53.2%、「親のどちらかが無理をして仕事を休んでいる」29.9%、「家にいる方が世話をする」22.9%、「休めないし、頼む人もいなく困っている」11.1%、「知人に頼んでいる」4.5%、「仕事を休めないので保育園に連れて行く」2.9%、「子どもの兄弟姉妹が世話をしている」1.9%であった。「その他」は、10.7%あった。

保育園児と幼稚園児を比較すると、「親のどちらかが仕事を休む」は、保育園児 55.6%に対し幼稚園児 33.1%、「無理をして仕事を休む」は 31.4%に対し 18.5%で保育園児の率が高かった。「家にいる方が世話」は 21.5%に対し 32.5%で、幼稚園児に多かった。

病気の子どもの世話に関しては保護者の滞在年数による差はあまり見られず、共通の問題と思えた。ただ、滞在年数3年未満の保護者は、「知人に頼む」が 2.8%と少なく、長くなるにつれて増えていた。

### 2. 病気の子どもの世話での「その他」

#### の内容

「その他」の項には多くのことが記述されていた。「ひとり親なので子どもが病気になったときに困っている」「仕事との関連で対応に苦労をしている」「知人がいない」「病気がちで困っている」「病気の子どもをみてくれたら」など困っている様子がうかがえた。

また、「ちょっとしたときには祖父母・知人に、病気の状態によって親が仕事を休む」など子どもの状態に合わせて対応しているとの記述もあった。子どもの病気については、本章4. 子育ての気がかりでもふれる。

ここでは、「その他」の欄に記述されていた内容を中心に、それに付随する問題を保護者の声を通して示した。

#### 子どもを頼む具体的な人について

「義理の母か私がめんどろをみます。」(保3女・母38歳・フィリピン・13年)

「ナニーやベビーシッターです。しかしいつも適当な人を雇えるわけではないので、どちらかの親が休んでいる。」(保3女・母33歳・カナダ・2年)

#### 病状によって対応

「軽い病気だったら祖父母に頼むが、大きな病気になったら母親が休んで子どもの世話をする。」(保3男・母28歳・日本・1年)

#### 頼む人がいない

「シングルマザーなので、子どもが病気の時でも他にだれもめんどろ見てくれる人はいません。」(保5女・母・フィリピン・8年)

「今自分に小さい子どもがいて、親類などいません。とても困っています。子どもが病気になったとき仕事を休まないといけない。何度も休んだら首になってしまうことがあるからです。」

(保0女・ラオス)

#### 病気になると心配

「病気のことが心配。いつも風邪をひいたりする。ポリオの予防接種をまだしていないがどこへいけばいいのかわからない。」(保5女・母28歳・ブラジル・10年)

#### 予防接種のシステムがわからない

「日本の予防接種のシステムがわからないので教えてほしい。」(保2男・母24歳・ブラジル・7年)

「予防接種を韓国で2歳までしてきたが、日本ではポリオの場合、韓国と違うので困る。」(保5男・母34歳・韓国・5年)

#### 受診時に言葉がわからない

「予防接種の日程がわからないので不安でした。子どもが病気になっても日本語が分からないので、病院の先生に伝えるのがむずかしい。冷たくされているように感じる。」(保4女・母41歳・ブラジル・8年)

「病気の言葉、特に病気の専門語。もし子どもが病気やけがをしたら病院へ連れて行く。先生

からの説明が十分わからない。特に夜間はとても不安です。」(保5男・母41歳・中国・12年)

### 仕事とのからみ

「休みはあまり取れないので、時々病気の子どもを会社につれていく。」(保5男・母35歳・7年)

「外国人だけでなく、日本人全体にとっても大きな問題です。子どもが病気になったとき休まなければいけないので、パートタイムで働くことにあきらめなければならぬからです。」(保3女・母39歳・ペルー・11年)

「子どもが病気の時には仕事を休まなければなりません。忙しいとき休みをとるのは非常に難しいです。」(保3男・母親35歳・台湾・12年)

「基本的に母親が休んで子どもの世話をします。ですから日本の社会では女性は仕事に全力投入することができないと感じています。」(保3男・母35歳・中国・8年)

### 医療費・経済的問題

「子どもを病院へ連れて行くとき。医療保険の免除がなくて困っている。」(保2男・母32歳・韓国・7年)

「子どもが事故や病気になったとき、わたしが仕事を休まなくてはならない。子どもも園に行けない。日本は物価が高いので、休むとお金もらえないので心配です。」(保卒男・母37歳・タイ9年)

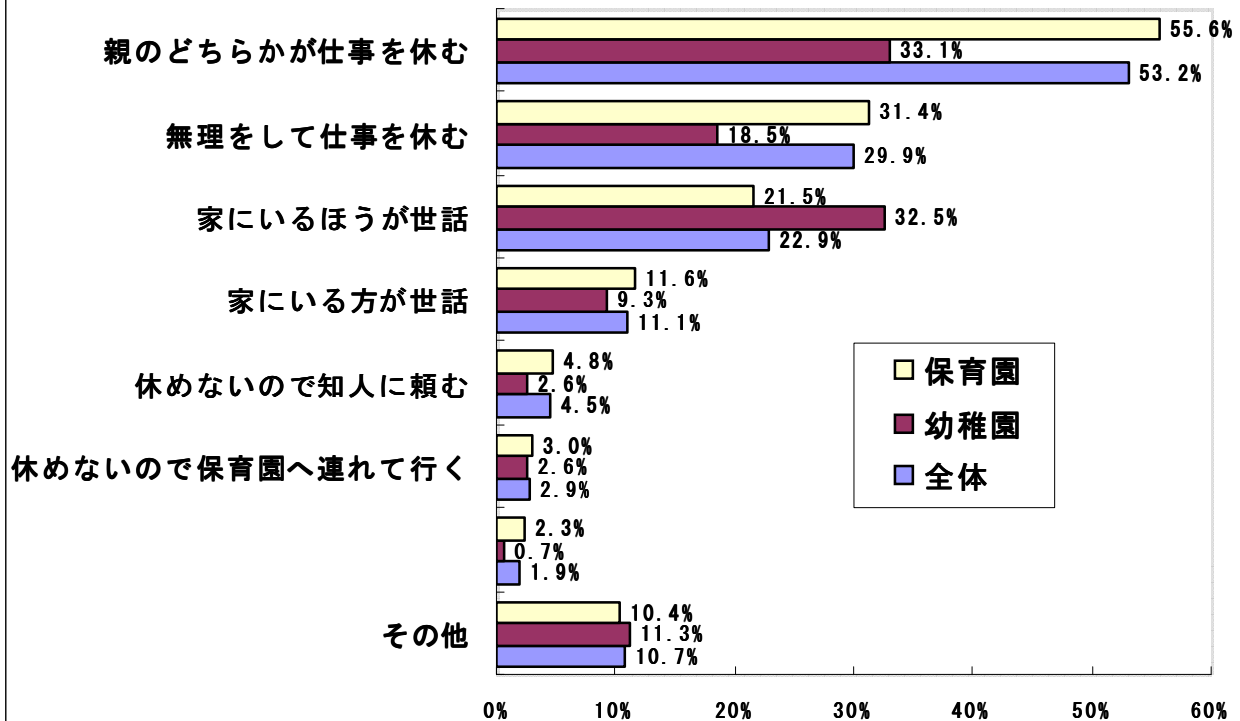
### 病時保育への要望

「子どもが病気のときで休めないとき。子どもをみってくれる人がなく、あずかるしせつがないこと。」(保5男・母39歳・韓国・10年)

「病気になった子どもの世話をしてくれるところがあれば、子どもをそこにあずかってほしいです。」(保5女・父親37歳・中国7年)

( ) は、保育園・幼稚園の別、学年、性別・回答者の続柄、年齢・国籍・滞在年数を表す。

図4-13 病気の子どもの世話



N=2001